

幼児期の他者の感情理解の発達

—— 文脈に沿った感情変化を通して ——

Development of understanding other's emotion in preschool children

—— In emotion shift along context ——

高木 真由美*・高橋 道子*・望月 登志子**

Mayumi TAKAGI, Michiko TAKAHASHI, Toshiko MOCHIZUKI

臨床心理学*

要 旨

本研究では、4～6歳の健常な幼児（n=106）を対象に、文章を通じた他者の感情理解が感情の種類、年齢によってどのように異なるかを明らかにした。導入・展開・結末の三場面からなり、二つの感情が生起するストーリーを図版によって呈示し、各場面での主人公の感情を選択させる課題を実施した。対象とした感情は「喜び」「悲しみ」「恐れ」「安心」であった。ストーリーは「喜び」から「悲しみ」に変化するものと「恐れ」から「安心」に変化するものを用意し、ストーリー間の理解度の違いも分析対象とした。なお、理解の到達程度を検討するために、大人との比較も行った。

その結果、「喜び」や「悲しみ」の感情とそれが生起するストーリーは4歳からよく理解され、5歳になると大人と同様の理解がなされた。これは表情による感情認知や感情語の理解と同時期に、文脈を通じた感情理解が出来るようになることを示している。一方、「恐れ」と「安心」やそのストーリーは理解が遅く、6歳でも半分程度の正答であり、大人同様の理解は、就学以降であることが推測される。誤答傾向から、少なくとも4歳の時点には肯定的感情と否定的感情が分化していることが推察された。6歳では「喜び」から「安心」が、「悲しみ」から「恐れ」が分化しつつあることが分かった。また、二つの感情の誤答傾向の比較により、「恐れ」の理解が「安心」よりも早めに確立されることが推測された。

キーワード: 幼児, 感情理解, ストーリー理解

* Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukui-kita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)

** Japan Women's University